

会 議 記 録

会 議 名 称		令和 7 年度 杉並区体育施設指定管理者評価委員会	
日 時		令和 7 年 7 月 14 日（月）13 時 30 分～16 時 00 分	
場 所		杉並区役所西棟 6 階 第 5 会議室	
出 席 者	委 員	5 名	
		寺井委員（委員長／区民生活部長） 阿出川委員（文化・スポーツ担当部長）、近藤委員（地域施設担当課長） 田森委員（スポーツ振興課長）、齋藤委員（社会教育主事）	
	オブザーバ ー	1 名	
		国士舘大学大学院 特任教授 菊 幸一	
事 務 局	6 名		
	スポーツ振興課計画推進担当係長、計画推進担当 1 名 施設管理係長、施設管理係主査 3 名		
配 付 資 料		・ 次第 資料 1 杉並区体育施設指定管理者評価委員会設置要綱 資料 2 基本的な質問（例示） 資料 3 令和 7 年度杉並区体育施設指定管理者評価観点 資料 4 令和 7 年度杉並区体育施設指定管理者評価委員会評価表	
会 議 次 第		1 開会、ヒアリングにあたって 2 指定管理者ヒアリング 3 総括 4 閉会	
＜会議要旨＞			
1 開会、ヒアリングにあたって 委員長挨拶、委員・オブザーバー自己紹介。 事務局から、本日の評価委員会の進行の説明を行った。			
2 指定管理者ヒアリング 各指定管理者から、これまでの運営実績等の説明（10 分程度）を行い、それに対して質疑応答及びオブザーバーからの助言（20 分程度）を行った。			
(1) コナミスポーツ・杉並建物総合管理協同組合共同事業体 指定管理施設：荻窪体育館、大宮前体育館、高円寺体育館			
【主な質疑応答】 ○提案時の事業計画の中で、これまでの指定管理期間で取り組んだ内容と取り組めなかった内容は。			
→大宮前体育館の屋上に日よけを設置して教室などで活用することは、今年度中には取り組みたい。同体育館で取り組めたことは、様々なイベントを開催し、体育施設へ足を運ぶきっかけづくりを行ったことである。 荻窪体育館、高円寺体育館では、利用者は拡大しているものの、目標に対してはまだ達成できていない。高円寺体育館においてトップアスリートの誘致や杉並かるたのイベントを今年度実施するなど、達成に向け取り組みたい。			

○これから3館が面で連携して実施していきたいことはあるか。

→大宮前体育館のスタッフが人員の足りない時に荻窪体育館へ行くなど、スタッフの相互運用を拡大し、人件費を抑制していきたい。

○ユニバーサルタイムの運営は大変かと思うが、実際にやってみてどうか。

→昨年度から毎月の実施になり、徐々に参加者が増加している。今後は、障害者の方が体育館を日常的に利用することにつなげたい。スポーツを通してコミュニケーションを取ることができ、とても有意義である。街中で困っている障害者の方に迷わず声をかけられるなど、スタッフの成長にもつながっている。

○前指定管理期間は大宮前体育館のみだったが、今期から3館の指定管理となったことによるメリットなどはあったか。

→疑問に思ったことを3館で共有でき、問題が解決しやすくなった。
特に、今年はさざんかねっとの入れ替えがあり、各館で情報共有を行っていた。

○コナミスポーツという企業のメリットを生かした事業はあるか。

→様々な教室プログラムを提供できる点がメリットだと思っている。経費については、会社全体で契約するため、例えば、物品購入などは安価となる。

○荻窪体育館や高円寺体育館で教室を実施する際、指定管理を先行していた大宮前体育館でのノウハウを生かすようにしているのか。

→大宮前体育館の性別や年齢などのマーケティング分析を参考にしている。また、ヨガやピラティスの教室など会社全体のノウハウや人材を生かしている。

○新たな利用者を広げるため、ホームページに障害者も参加しやすいような掲示をしている点がとても良かった。
大宮前体育館の利用について、教室数は増えているが、教室参加者数は横ばいとなっている。これは何か理由があるのか。

→定員に達した教室が多数あり、状況を見て教室を2つに分けるなどの対応をしている。
また、参加者が集まらない教室は、3か月ごとに見直して改善している。

○杉並区スポーツ推進計画との関連で、スポーツを中心とした地域づくりの担い手の創出に関する取組があれば教えてほしい。

→インストラクターやプールのコーチ等のスタッフには、研修を行っている。一般の人向けには、実施できていない。

○スタッフの配置と教育について教えてほしい。例えば、配置については、夜間に1人で対応する職員は、研修をきちんと受けた方を置くようにしているなど。教育については、アルバイトの方が一人で対応できるまでにどのくらいの時間をかけているかなど。

→配置はフロント2名、プール4名などと定めているが、新人は最大4か月程度、その人数に含まず、ベテラン職員と組んでOJTを実施している。コナミスポーツの接客に関する研修ビデオ等も活用している。

○大宮前体育館の満足度が少し下がっている原因は。また、利用者数が回復していない原因として、一般使用の利用者が以前より減っている点が見て取れるが、これについてどう考えているか。

→満足度については、体育室の空調の効きが悪くなっており、扇風機設置などの対応を行っているが、利用者には満足いただけていないという点が考えられる。

一般使用については、新規利用者が増えてはいるが、利用者の顔触れ自体はあまり変わっておらず、その常連の方々の利用頻度が減ってきているのではと感じている。

【オブザーバーからの助言】

○利用満足度については、現状を踏まえ、利用者から見て何が満足かを考える必要がある。3館それぞれの強みも違うため、それを生かしながら、お互い足りないところを補うような、面での連携を図ることが重要である。例えば、3館全てに通っている利用者と1館だけ通う利用者には、それぞれ違うニーズがあり、この施設はこれができるからリピーターが多い、このイベントを開催したから新規の利用者が多いといったように、細かく分析し、3館の強みと利用者のニーズをつなげていってほしい。

(2) TAC・FC東京・MELTEC共同事業体

指定管理施設：上井草スポーツセンター、妙正寺体育館

【主な質疑応答】

○提案時の事業計画の中で、これまでの指定管理期間で取り組めなかった内容は。

→キャッシュレス決済についてはまだ実現できていないが、現在準備中である。それ以外は、概ね取り組んでいる。

○施設利用促進への取組について、1か月チャレンジという事業を実施されているが、どのくらいの人が利用しているか。

→毎日1～2人。月30～50人程度の人が利用している。

ジムに来てもし使い方がわからず1～2回でやめてしまう人がいたため、そういった方向けに実施している。

○杉並区スポーツ推進計画との関連で、スポーツを中心とした地域づくりの担い手の創出に関する取組があれば教えてほしい。

→サッカーの指導者講習会を実施し、地域のお父さんコーチや協力団体を通じて情報発信をした。元サッカー選手でライセンスのある講師をFC東京から派遣して、地域の方に指導している。また、食育やスポーツに対する取り組み方、社会形成なども伝える場としている。

○上井草スポーツセンターにおける熱中症対策として、屋外と屋内を行き来する方が多く難しいと思うが、施設の空調の効かせ方で工夫している点があれば教えてほしい。

→一昨年、利用者から暑いという意見があったため、共有部は既存の設定から温度を1度下げた。室場は利用者からの声を聴きながら変更するなど対応している。

○令和6年度から新たに取り組んだスポーツ振興事業等で、スポーツのきっかけづくりや新たな利用者開拓に最も効果的だったことがあれば、教えてほしい。

→自主事業として、スポーツを拒絶しているような人に、まずは施設に来てもらえるよう、様々なイベントを実施し、集客に効果があった。広報の面では、紙のチラシだけではなく、様々なWEB広告等を活用し、集客に努めている。

昨年度から長寿応援ポイント対象のフレイル予防体操を始めた。今年に入ってから、定員を超える参加希望があり、高齢者のスポーツへの関心が高まっていると感じる。

○フレイル予防体操について、今年に入ってから人数が増えた理由は何があるか。

→長寿応援ポイントの対象事業となったことが要因だと考える。

○上井草スポーツセンターでは長期間、指定管理を担っていて、施設も老朽化してきたと思うが、具体的な施設の状況や修繕の計画があればお聞きしたい。

→毎年、区の調査に対し、大規模修繕の希望を出している。例えば現状では、グラウンドの防球ネットが老朽化しているが、費用が高額なため修繕できていない。また、プール槽内の塗装が剥がれてしまい、劣化している。

○この地域の利用者は、2施設利用や1施設のみ利用など、どのように2施設を利用しているのか。

→調査していないため感覚的な話になるが、1施設のみ通っている人の方が多い印象。車で通いたい方は上井草スポーツセンターを利用、区内の東側に住む方は妙正寺体育館を利用、プールを使いたい方は上井草スポーツセンターを利用するなど。

○2施設をグループ化したのは、それぞれの地域特性がある中で、2つの施設を上手く使って、地域を繋ぐことができるという理由もあると考える。そのためには、ただ利用者に2施設を行き来してもらうだけでは上手くいかない。例えば、この利用者はロコミで周囲にPRしてくれるなどの情報について、長期間の運営実績があるからこそ収集できるはずである。このような社会的な人間関係に関して、何か気づいていることはあるか。

→上井草スポーツセンターで大人のサッカー教室、妙正寺体育館ではフットサル教室を実施しており、それぞれの参加者に両方の施設を利用してもらえよう、教室を積極的に周知するようにしている。

○子どもの居場所や部活動の地域展開などが課題となっている中で、今後子どもたちがなかなか学校施設を利用できない場面も想定されるが、施設として何か考えていることはあるか。

→区の施策に基づいて、これから子どもの一般開放を実施していく予定である。現状、上井草スポーツセンターは2階のふらっと広場で、小中学生の子どもたちが勉強等をしていて、子どもの居場所として根付いている。妙正寺体育館ではそういった場所がないため、この夏休みに、学習スペースとして会議室を開放し、子どもの居場所づくりに取り組みたいと考えている。

【オブザーバーからの助言】

- 施設設備について、利用者の意見は多いと思うが、施設管理者の考えと利用者のニーズをどう擦り合わせるかが非常に重要。施設管理者として優先順位を考えてほしい。
- スポーツの普及のために文化活動からアプローチしていくことは重要で、そこでスポーツをしている人を見ることで、自分もやってみようという気持ちになる。こうした自然とスポーツに誘うようなインセンティブを与える方略を今後も推進してほしい。

(3) 杉並スポーツ・カルチャー共同事業体

指定管理施設：松ノ木運動場、永福体育館、下高井戸運動場・区民集会所

【主な質疑応答】

○提案時の事業計画の中で、これまでの指定管理期間で取り組めなかった内容は。

→50 問くらいの質問の回答と、簡単な測定をして専用の機器で分析し、自分の健康課題が明らかとなる「Dr. セルフチェック」についてはこれから取り組む予定であり、予防策として区民が運動する機会を増やしていきたい。

○土曜の音楽会という文化活動を実施している。文化活動がスポーツに参加するきっかけになると良いと思うが、他にも取り組んでいることはあるか。

→そこまで多くの文化活動は実施できていないが、下高井戸は区民集会所併設ということで、まだまだやれることはあると思う。令和5年度からは、カルチャーイベントフェスティバルを集会所で実施している。

○杉並区スポーツ推進計画との関連で、スポーツを中心とした地域づくりの担い手の創出に関する取組があれば教えてほしい。スポーツに関するイベントを地域の方も一緒に考える機会があると良いと思う。

→スポーツになるかはわからないが、永福体育館にあるビーチコートでは定期的に砂を均す作業が必要となるため、ビーチコートを利用していない区民の方にもそれに参加してもらうようなイベントを実施したいと考えている。

○永福体育館1階のカフェの稼働状況や活用の方針、方向性などがあれば教えてほしい。

→営業時間はコーヒーを販売し、出入りは自由で、よく学生が勉強で利用している。今後は子どもの居場所づくりのため、場所の提供について周知していければ、より活性化されていくと考えている。また、スポーツフェスティバル（スポーツの日イベント）や今週開かれるデフリンピックのイベントでは弁当やパンを販売している。

○これまで行ってきたスポーツ振興事業等で、子どものスポーツのきっかけづくりや新たなスポーツを始めることへつながった取組などがあれば教えてほしい。

→永福体育館で、子ども・大人問わず、未経験者でも気軽に参加できるビーチテニスイベントを実施した。イベント後に継続的な活動につながる交流機会を設けたことで、参加者がその後も一般使用に参加され、スポーツを始めるきっかけになったと考える。そのほか、子どもを対象としたスポーツ体験なども実施した。今後もビーチコートの活用イベントを開催していきたい。

○FC東京が実施している地域コーディネーターの活動について、地域が持つ課題に対して、スポーツと地域をどう結び付けていくかが重要になるが、実際に活動していて、地域の課題など気が付いたことがあれば教えてほしい。

→上高井戸児童館にアウトリーチ活動で行く機会が多く、そこで地域の子どもたちがスポーツのきっかけとして学びたい、複数のスポーツやレクリエーションを組み合わせた実施についてご相談いただき、講師派遣をしている。この取組をきっかけに、地域の学校関係団体のイベントでもスポーツの楽しさを教えてもらえないかというお話をいただいた。そのため、地域にはスポーツの需要があることを知り、その需要へアプローチすることができたほか、スポーツ施設を運営していることを知ってもらえる機会にもなり、実際に施設の利用にもつながった。

【オブザーバーからの助言】

- 地域での活動をする中で、その地域の子どもを取り巻く状況、例えば、共働き夫婦の家庭が多いなど、様々な地域の課題があると思う。それらの課題へのアクセス方法を考察し、スポーツ施設の運営者として、それに結び付く様々な活動を提案していくことで、施設が公共的な意義を持つことへとつながる。こうした観点を報告の中でも触れていただき、もう少し深掘りしてほしい。
- ビーチテニスはすぐに試合ができるから良いとの話があったが、その通りだと思う。スポーツは練習しないと試合ができないイメージを持たれるが、本来は試合をしたいから自主的に練習するという方が正しい。例えばバレーボールでも、バウンドしても良いルールとすれば、初心者でも試合を行える。また、歩いてプレーできるウォーキングサッカーを取り入れるなど、工夫次第で子どもや高齢者、障害者も一緒にプレーできる場となり、スポーツの広がりが出てくるので、今後も考えていってほしい。

3 総括

- ・評価結果については、どの指定管理者も「協定書や事業計画のとおり業務が実施され、かつ、業務の質が全体的に確保されている。」ため、A評価とすることとなった。
- ・各施設の取組状況に応じた、コメントについて意見交換を行った。

(1) コナミスポーツ・杉並建物総合管理協同組合共同事業体

コナミスポーツの強みを生かした体操関連の教室事業を展開している点は評価できる。当該事業者が運営する民間スポーツ施設との住み分けや、指定管理3施設の相互連携等の具体的な展望があると更に良い。

大宮前体育館の利用者数の伸び悩みや利用者満足度の減少について、原因を詳細に分析し、改善策を検討してほしい。

ユニバーサルタイムへの協力など、障害者スポーツの推進への積極的な姿勢が見られるため、引き続き、障害者が日常的に施設を利用することにつながる取組を期待する。

(2) TAC・FC東京・MELTEC共同事業体

スポーツを始めるきっかけづくりや施設利用者の増加に向け、イベントにクリスマスリースづくり等スポーツ以外の要素を取り入れるなど、取組を工夫しており、評価できる。

上井草スポーツセンターの計画的な修繕に当たり、施設管理者として利用者のニーズを踏まえつつ、今後とも区と綿密に連携してほしい。

区の方針である子どもの居場所づくりの充実については、現在の取組から更に一歩進んだ事業の展開を期待する。

(3) 杉並スポーツ・カルチャー共同事業体

永福体育館のビーチコートを活用したプログラムが充実しており、地域との連携も考えられているため、評価できる。

誰もがスポーツに親しむことができる場の提供を積極的に行っており、今後は更なる取組を期待する。

地域団体等との協働が進んでいる点は良いが、地域課題の解決に寄与するためには、地域コーディネーターの位置付けを明確化するなど、より正確な現状分析を踏まえた取組が必要と考えられる。

4 閉会